

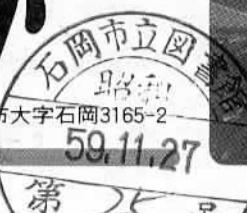
市の人口  
(11月1日現在)

|   |          |
|---|----------|
| 男 | 24,323人  |
| 女 | 25,087人  |
| 計 | 49,410人  |
|   | 14,164世帯 |

いわおか

11月号

昭和59年11月15日発行 茨城県石岡市役所 〒315 石岡市大字石岡3165-



右岡の民家 ①

灰吹屋藥舗（府中二）

少年ジャンプを買わなくつ  
ちや“家を出てすぐに左へ曲り  
植込みの続く住宅街を軽快にペ  
ダルを踏んで進みます。

さわやかな五月の末の宵の口  
東石岡三丁目に住む植田清子さんは、自転車に乗つて近所の書店へ向かいました。

石中一年の  
植田清子さん

# 火事少女を防いだ



▲「消防署から表彰されるって聞いて、始めて知ったのよ。どうしてこんな善い事半年近く黙っていたの？」と担任の杉本先生。植田さんはちょっとびりはにかんだ表情です。「自分の善行をそっと胸に秘めて置くなんて……」先生は優しく微笑みました。



消防団副団長

海老沢満雄氏

命を賭けた三十年

植田さんは自転車に飛び乗って書店へと急ぎます。街灯の光を進む一台の自転車、春の夜花の薰りで一杯です。

A black and white photograph of a young boy with dark hair, wearing a striped shirt, sitting in a small boat. He is looking up at a larger sailboat with a prominent white sail featuring a blue logo. The background shows a chain-link fence and some trees.

▲東田中婦人防火クラブ（川又賞子会長）に小型消防ポンプが市消防本部よりプレゼント。引き渡しの後、さっそく放水訓練が行われました。



火事の真っ只中へ入つて筒を持つたら凄く熱くてねえ頭から水を掛けでもらつた覚があります。火が収まつて、われた家の人たちから感謝の

この事件は遂に迷宮入りで、が関係したものの中では最も大きな事件でした。

三十年という長い年月の間は、命がけの消火活動や心暖まる出来事、目を覆うような悲惨な事件などがありました。

八郷町の片野に大火事がつた時、あれは昭和三十三年冬

「石岡の街は、夜八時を過ると人通りは全くなし。夜歩くと怪しまれて職務質問されるで、バーとか国分館や東宝の映画館などは閑古鳥が鳴く始末。

もしも火災になつたら

- 消防署と隣近所に早く知らせる。
- 消火器や水バケツなどで早く消す。
- 炎が天井に入つたら、早く逃げる。
- 日頃の備えは
- 消火器や水バケツなどを常備しておく。
- 避難ばし「やローブなども備えておく。
- できれば、簡易型火災感知器を取り付けねば心強い。
- 詳しく述べ、市消防署予防課へ。

# 公民館かつどう最前線

♥上手に利用して楽しい毎日を

市の食生活改善推進委員が指導している料理講習会だそうです。毎回、三十名前後の人気が集まり和気藹々と勉強中とか。

又、東地区自慢の陶芸同好会の皆さん、市の美術展に出品作品を製作中の現場を見せてもらいました。会員は二十五名との事。この日は十三名の方が黙々と手を動かしていました。「何か物を作ることが好きで始めたのですが、子どもが幼稚園から帰るまでの時間来ていてます。二年になりますが、費用も安いし、面白くて止められません」と傘立てを製作中のヤングママ。

「私は白雲荘で始めた時からだから、陶芸歴は五年になるよ。家では汚れるし、冬は寒いから

★府中五丁目5-1  
電4-1530-17  
府中地区公民館を訪れます  
入口に鳥居のような大きな門  
あります。あれは、その昔、  
町の泉橋の所に「木戸門」が  
てられていた名残りを、市民  
社会教育を受ける場である公民  
館の門に留めるという意味で設  
置されたということです。

と、時間的に無理なのでしょうか、若いお母さんの参加が少なんのではありますよ。

親子の触れ合いの場に

# 府中地区公民館

“五十七年七月、総工費約二億一千七百万円を掛けて設立”——と、係の方の言われる日時計のある東地区公民館は、小川道からストアトの横を少し入った閑静な場所に建っていました。

現在、特に人気のある講座は市の食生活改善推進委員が指導している料理講習会だそうです。毎回、三千名前後の人が集まり

東地区  
公民館

# 目玉は陶芸教室

ここでやるのが一番良いネ、  
とは、腕に自信有り気の年配  
男性。初心者に助言しながら  
ステキな花びんのカットをし  
いる所でした。

玄関を入りますと、正面の陳列ケースの中に、受講生の作品かと思われる品々が、配貢良く並べられているのが目にに入りました。隅々までお掃除の行き届いた館内の二階からは、のどかな日本調の歌声が聞こえます。

——カラオケですか? とお聞きしますと、

「今日は民謡教室が開かれていいんですよ。皆さん樂しそうで雨が降っても、

## 取材

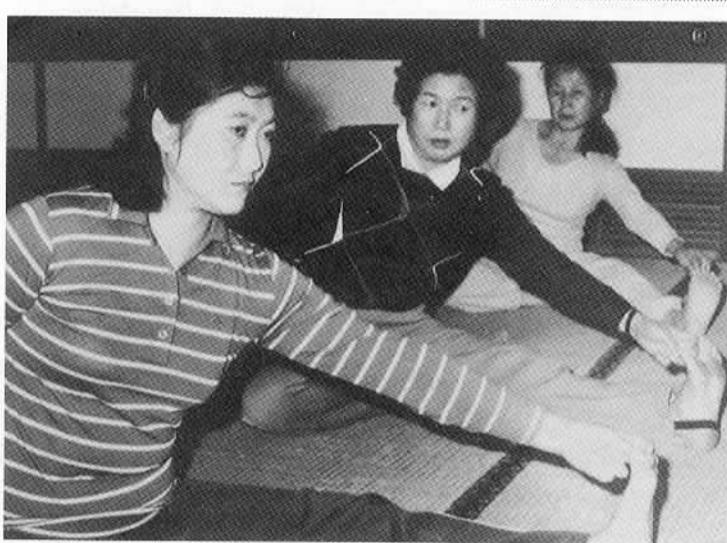
## レポート



市民記者 雨谷捷子

市費が投じられたことと思われますが、果してこのような立派な施設を、市民の皆さんは、どれだけ利用しているのか、取材してみることにしました。

近頃はカルチャーセンター大流行で、子どもの手が掛からなくなつた母親や、自由時間持て余し気味の定年組、そして人生八十年と寿命が延びて、ボケては大変と頑張る老人パワーの面面。それぞれの立場で生涯教育をめざして、学習意欲を燃やしているのでしょうか。



▲土浦の「土浦・石岡地方社会教育センター」へ足を伸ばすと、2階の和室では熱心なヨガ教室が。『75キロの体重がヨガのお陰で61キロになりました』と語る70代の女性は千代田村から来ました。

## 語り合える仲間を求めて

- を開いたのですが、集まつたのはベテラン奥さんばかりでした。これからは、小さいお子さんがいても、親子で参加出来るような「親子教室」に力を入れて行きたないと考えています。

家庭を離れたところでの親子の触れ合いの場として、大いに利用してもらいたいと思って、と、長谷川館長さんが抱負を述べられました。

▲東地区的陶芸同好会は、陶芸講座が発展し自主的に結成されたもので、楽しい制作現場は見ていていつまでも飽きません。

ぶ人々は、やはり学んだことを語り合う仲間を求めています。肩をたたき合い、理解し合える友達を得てこそ、学ぶことの充実感を味えると申えます。

能力のある人は出し惜しみしないで積極的に遅れている人に手を貸して上げたいのです。充実した生き方を学ぶためにも……。

● 後藤明子(24) 石岡市役所  
市役所に入つて一年八ヵ月、  
後藤さんは人事の仕事をしてい  
ます。

— 仕事は慣れましたか。

「最初は人事の仕事を覚える  
のに精一杯でした  
たが、少しずつ  
分かつて来まし  
た。今だと、一  
つの事を始める  
のに、一步踏み  
留まつて考える  
余裕ができるま  
であります。仕  
事を一所懸命す  
る事によって、  
自分の住む石岡  
が少しでも良く  
なれば、と思

A black and white photograph showing a close-up of a person's hand holding a small, dark bottle of perfume or cologne. The bottle has a dark cap and a label that is partially visible. The background is blurred, suggesting an indoor setting.

### 乾電池を捨てる時

- 市役所・市民会館・メイカルセンター・青少年センター・府中地区公民館・東地区公民館・図書館・小中学校に置いてある回収容器へ入れてください。  
一般ごみに混ぜることは、撓破りの環境汚染になります。  
詳しくは、市厚生部清掃課へ。  
**☎3-1111 内線233**



▲国府公園は二千人の市民でうずまきました。午後一時半から始まった野外音楽祭。最初は、小中学生全員の大合唱で「まつかな秋」がオーブンダナンバー。「もみじ」や「虫の声」「赤とんぼ」など、国府公園は子供たちの「元気な秋」でいっぱいでした。



▲大勢の聴衆にタクトを持つ先生もちょっぴり緊張ぎみ。「おもちゃのチャチャチャ」をユニークな構成で高浜小の二年生が合奏しました。



▲子供たちの演奏には、石岡の未来がキラキラと輝いていました。写真は、組曲「ペールギュント」を演奏する三村小学校の合奏団です。

## 市制30周年記念式典 石岡市30年の秋に祝う

●音楽祭や歌謡ショーも花を添えて ●



▲「哀愁列車」や「たっしゃでな」など三橋美智也の歌声に会場はノスタルジックな雰囲気に包まれました。

▶式典での表彰風景。  
功労・自治功労・防災功労・産業功労・教育功労・開発事業功労・統計功労・民生福祉功労・善行の各代表9名が壇上へ。



▲朝9時に式典招待者がぞくぞくと市民会館へ。  
この日は、市制30周年を祝うかのような文字通りの秋晴れ。澄みきった秋空の下、市民会館へぞくぞくと招待者が訪れました。中には、千葉県の松戸など遠方から来た方々もいて、ホールのあちこちで懐かしげなあいさつが交っていました。

一方、入口付近では、1時開演の三橋美智也ショーを待つ十数人の人たちが列を作っていました。



▲市民憲章を朗読する30歳の男女。  
石岡市の誕生した年に生まれた二人が、市民憲章の5つのフレーズを声高らかに朗読しました。



▲朝9時に式典招待者がぞくぞくと市民会館へ。

この日は、市制30周年を祝うかのような文字通りの秋晴れ。澄みきった秋空の下、市民会館へぞくぞくと招待者が訪れました。中には、千葉県の松戸など遠方から来た方々もいて、ホールのあちこちで懐かしげなあいさつが交っていました。

一方、入口付近では、1時開演の三橋美智也ショーを待つ十数人の人たちが列を作っていました。

## 無料 高齢者職業相談所

●市役所社会福祉協議会内

平日 午前9時～午後4時・土曜 午前11時まで

☎3-7777・3-1111 内線256



11月1日にオープン、開所式も行いました。

## 市長日記

●十月十六日火

朝日新聞の茨城版に読者の投稿欄があるが、私は今朝、日立市に住む御代田澄江さんという主婦の方が寄せられた一文を見た。庭師さんが寄せられた。心の世界へひきこまれた。帰宅して再び灯火でゆっくり



読み直したが、荒みゆく今の世の流れにどうかすると流れてゆこうとする自分をみつめ、こんな美しい心に頭の下る思いがあるのである。

投稿者である奥さんは、秋深みゆく中でわが家庭の木の手入れを思いたち、「市の生きがいに頼み庭師さんに来て貰つた。奥さんは用事があつたので後

手入れする人の心を映すことで木の葉ゆれるも嬉しくぞ見る。木の葉ゆれるも嬉しくぞ見る。奥さんはこの庭師さんの心に感動し、刈り込まれた木々の枝に降る雨に眼をやるのであつた。自分の胸をよぎる詩情の中から、手入れせる人の心を映すことで木の葉ゆれるも嬉しくぞ見る。奥さんはこの庭師さんの心も、名も知らぬ庭師さんの心も、

そしてこの奥さんの心持も、何な一つの物語りを聞く思いが平安の昔に憧れを感じるよう静かにわが胸を打つ、秋の夜の



公民館

# 文化・スポーツ



図書館4-1507 ★府中地区公民館4-1530 ★東地区公民館6-6503

無敵!  
素敵!

## さわやかママさん バレーチーム

三友クラブ(三村)



▲練習の後全員で。今後は県に登録して県大会でも活躍したいとさわやかなハーモニー♪

市内のママさんバレー、ボーラーは、これだけですか? 春、夏と四連覇をしている三友クラブを訪ねました。毎週水曜日午後八時から十時まで、三村小学校体育館で練習しているというので、一汗かい所で話を伺いました。

十九人制なのに、チームのメンバーは、これだけですか? 「ええ、十名です。少數精銳ですから。でも、メンバーを探すのも大変です。小学校のバレー大会などを見てすぐトレードに」とトレードの名人酒井富子さん。

「ご主人たちは、何も言いませんか? 「いなくて、清々してみたい。」

バレーボールの練習日は、家事は早くませて来ます。水曜日が待ちどおしい。それに、旦那の理解がなければ難しいですね」と和気あいあいに原田松枝、野原原繁子さんたち。

静枝、高野好美、田端悦子、梅原繁子さんたち。「石岡で一番強いそですか? 「ええ、十名です。少數精銳ですから。でも、メンバーを探すのも大変です。小学校のバレー大会などを見てすぐトレードに」とトレードの名人酒井富子さん。

「ご主人たちは、何も言いませんか? 「いなくて、清々してみたい。」

「一つのボールを追う姿に魅せられて、八年が経ちました」と監督の原田良秋さん。

「バレーボールをして楽しい事は、もちろん試合。それに反省会、他のチームの方も参加する程楽しいんですよ。夜の控えは長谷川一二子さんがいます」と夫婦舟の得意な高野一枝さん。

これからチームの課題は、「このユニホーム全日本みたいに二年生、東小と三村小の三年生

約九十人の児童とその父兄四十人が参加して、熱心な話し合いが始まりました。

講師は市読書連合会会長の入

りが一面、二十二メートル×十

七メートルの全天候型が一面で

トール×二十二メートルの芝張

りが一面、二十二メートル×十

七メートルの全天候型が一面で



